

平成30年度 授業改善推進プラン

教育目標

○よく考える子 ○やさしい子 ○げんきな子

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 学習指導要領
- 東京都教育目標
- 港区教育目標

- 学校・家庭・地域の願い
- 保護者・地域の期待や願い
- 期待される児童増

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

- ☆基礎基本の確実な定着
- ☆校内研究、OJTの充実
- ☆複数担当制の充実
- ☆算数少人数習熟度別指導の充実
- ☆読書活動の充実
- ☆ICT教育の充実
- ☆国際科の推進
- ☆体験学習・調べ学習の充実
- ☆「特別な教科」道徳の充実

各教科の指導の重点を確実に児童に身に付けさせるため次の取組を行います

教科名	取組内容
国語	◎話し合い活動を充実させることで、主体的に自分の考えを発信していく力を育てていく。 ○理解や表現、語彙力育成のため、言葉調べを行ったり文章に触れる機会を多くとったりする読書活動の充実を図る。
社会	◎資料の読み取りや予想を行う際は、一人で考えてからグループ等や全体で協同的に考えることで様々な視点で考えられるようにする。 ○ノートや新聞等に自分の考えを書く機会を増やしたり、友達の良い意見等を全体共有したりすることで、考え方や表現の仕方を理解し、思考力・判断力・表現力の育成を行う。
算数	◎問題提示→めあて設定→見通し→自力解決→集団検討→全体共有→まとめの流れを基本とする問題解決型学習を行う。 ○自分の考えや知識を説明する機会を設け、友達と交流して多様な考えや分かりやすい表現を学び合えるように指導する。
理科	◎問題→予想→実験→結果→考察→結論の問題解決型の学習の一連の流れを継続して行い、児童が主体的に自然の事象や科学的・物理的なことに疑問をもち、自ら解決していく力を身に付けさせる。 ○身近な科学的現象に興味をもち、探究心を育てる。
生活	◎校庭や公園等の自然に親しんだり、季節ごとの変化を感じたりする活動を通して、主体的に飼育や観察に興味をもち、分かったことや気付いたことを友達と交流して高め合えるように指導する。 ○自分を取り巻く身の回りのことに興味をもたせる。
音楽	◎〔共通事項〕や音楽の特徴を表す言葉と音楽活動を関連付け、友達と交流しながら聴き取り感じ取る力を深めるようにする。 ○生活の中の音楽に興味・関心をもち、学習したことを生活に生かす意識をもてるようにする。
図画工作	◎自分のイメージに近づけるために、既習事項を活用して表現し、友達と話し合いながら解決できる力を育成する。 ○自分の表現が向上したことに気づき造形を楽しめるようにする。
家庭	◎目的に合った布製品を制作したり、栄養バランスを考えた献立を作成したりするなど、児童が主体となって活動する力を身に付けさせる。 ○家庭で取り組むことができる課題を見付け、技能を身に付ける。
体育	◎思った通りに身体を動かすために、分かりやすい学習資料や動画を活用して児童が協力して高め合える指導を行う。 ○体育の場面だけでなく、日常から運動できる機会を増やす。

道徳教育の指導の重点

- 児童の実態に合った資料を選定し、児童が主体的に道徳的価値を考えられるようにする。
- ◎学習活動中に児童同士が意見や考えを話し合う活動を展開する。様々な立場の考えに触れることで、自分の考えを深められるようにする。

総合的な学習の時間の重点

- ◎似た課題を設定した児童でグループを作り情報収集や考察まとめなど意見交流をする。
- 地域や企業の力を活用し、児童が学習テーマに主体的に取り組みその中から課題を設定できるようにする。学習活動中に児童同士が意見や考えを話し合う。

生活指導の重点

- 相手の顔を見て、気持ちのよいあいさつができることを目指す。
- 問題行動の指導の際は迅速な指導を行い、その児童を認める機会と捉える。
- 教職員が芝小生活指導スタンダードを徹底する。

進路指導の重点

- キャリア教育をもとに、将来の自分について具体的に考える活動を取り入れ、自分自身に関心をもつことのできる授業を展開していく。中学との連携を図り、交流をしていく。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○情操教育・文化的行事の設定 (国際科発表会・音楽会・学芸会・展覧会・花育) ○基礎学習タイムの設定 ○わくわくタイムの設定 ○三田アカデミーの充実	○時間講師・少人数指導の工夫 ○学習支援地域本部の活用 ○ICT機器の活用 ○体験学習・調べ学習の充実 ○言語活動の充実	○複数指導者による評価 ○指導計画の見直し、カリキュラムマネジメントの充実 ○外部評価の充実	○校内研究の充実 ○年間を通してのOJT研修の実施 ○主幹・主任教諭による伝達研修 ○服務事故(体罰)防止研修会	○学校支援地域本部の活用 ○家庭学習の工夫 ○個人面談の充実 ○開かれた学校づくり ○外部人材との指導連携